

令和6年度事業報告書

社会福祉法人 小越会

目 次

第一. 社会福祉法人小越会基本理念・基本方針	1
第二. 社会福祉法人小越会法人・施設の概要	2
第三. 社会福祉法人小越会経営体制	3
一 評議員	
二 理事	
三 監事	
四 経営運営事業執行体制	
五 各拠点に組織体制	
第四. 中長期計画	6
第五. 令和6年度実績	8
一 法人全体・本部	
二 実施拠点	
1 こしじの里・しぶみ園	
2 おごしの里・しぶみ工房	
第六. 各拠点における主な活動事績等	18
一 法人本部	
二 こしじの里しぶみ園	
三 おごしの里	
四 しぶみ工房	
実績資料	25

社会福祉法人小越会 基本理念・基本方針・行動指針

基本理念

①当法人小越会は、次の3つの精神を基本理念として社会福祉事業に取り組みます。

- 1) 『思いやり』のあるサービスの提供
- 2) 『優しさ』をもったサービスの提供
- 3) 『愛情』のあるサービスの提供

②利用者的人格の尊厳を礎に、利用者本位の福祉サービスを安定した経営環境のもとで提供いたします。

③安全で安心できる暮らしの継続をモットーに、地域福祉の拠点として、そして地域のよりどころとしての機能を十分発揮して住民の期待と信頼にこたえます。

基本方針

- 1 「利用者に寄り添う心のケアの実践」
- 2 「利用者的人格と尊厳を守れる人材の育成」
- 3 「法令を遵守し安定した経営基盤を醸成」
- 4 「地域貢献を社会福祉法人の使命と捉え、信頼を高める」

行動指針

- 1 関わりを持ち、心配りができる心身のケアに努めます。
- 2 笑顔と優しい言葉で接します。
- 3 相手の立場に立って考え、信頼ある行動に努めます。
- 4 安全で安心な生活の継続を支援します。
- 5 差別、虐待、人権侵害を許さず、権利擁護に努めます。
- 6 環境の改善を進め、明るい組織風土づくりに努めます。
- 7 法令を遵守し、福祉の専門職として、その力を発揮します。
- 8 常に自己研さん努め、小越会の一員として誇りと自覚を持って地域福祉の増進に努めます。

第二 社会福祉法人小越会 法人・施設の概要

平成 4年 5月 社会福祉法人小越会法人設立認可
平成 5年 4月 特別養護老人ホームおごしの里開所
平成 10年 10月 特別養護老人ホームこしじの里開所
身体障害者療護施設しぶみ園(現 障害者支援施設しぶみ園)開所
平成 12年 4月 身体障害者通所授産施設しぶみ工房(現 障害福祉サービス事業所しぶみ工房)開所
平成 24年 5月 特別養護老人ホームこしじの里ユニット増築

○社会福祉法人小越会

長岡市不動沢2219番地5 代表 TEL0258-41-0801

○特別養護老人ホームこしじの里

障害者支援施設しぶみ園

長岡市不動沢2219番地5 代表 TEL0258-41-0801

介護保険事業

- ・介護老人福祉施設 定員50名
 - ・介護老人福祉施設(ユニット型) 定員40名
 - ・短期入所生活介護(介護予防) 定員20名
 - ・通所介護(介護予防) 定員28名
 - ・訪問介護(介護予防)
 - ・居宅介護支援事業
 - ・第一号通所事業
- 障害福祉事業
- ・施設入所支援・生活介護事業 定員10名
 - ・短期入所事業 定員1名
 - ・居宅介護・重度訪問介護

○特別養護老人ホームおごしの里

長岡市小国町檜沢90番地 代表 TEL0258-95-3110

介護保険事業

- ・介護老人福祉施設 定員50名
- ・短期入所生活介護(介護予防) 定員17名
- ・通所介護(介護予防) 定員25名
- ・訪問介護(介護予防)
- ・居宅介護支援事業
- ・第一号通所事業

○障害福祉サービス事業所しぶみ工房

長岡市小国町原甲348番地 代表 TEL0258-95-5233

障害福祉事業

- ・就労継続支援B型 定員20名
- ・共同生活援助 かわばた寮 7名 ひまわりの家6名
- ・地域活動支援センター 定員10名

第三 社会福祉法人小越会経営体制

- 一 評議員 7名
- 二 理事 6名
- 三 監事 2名

評議員会

第1回評議員会

開催日：令和6年6月13日 開催通知日：令和6年5月29日

出席 評議員7名 理事6名 監事2名

第1号議案 令和5年度社会福祉法人小越会事業報告について

第2号議案 令和5年度社会福祉法人小越会決算について

第3号議案 社会福祉法人小越会社会福祉充実残額について

第2回評議員会

開催日：令和7年3月21日 開催通知日：令和7年2月20日

出席 評議員6名 理事6名 監事2名

第1号議案 報告1 令和7年度社会福祉法人小越会事業計画

報告2 令和7年度社会福祉法人小越会当初予算

理事会

第1回理事会

開催日：令和6年5月29日 開催通知日：令和6年5月11日 出席：理事6名 監事2名

第1号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第2号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（こしじの里）の一部を改正する規程について

第3号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（こしじの里ユニット）の一部を改正する規程について

第4号議案 指定短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第5号議案 指定短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程（こしじの里）の一部を改正する規程について

第6号議案 障害者支援施設しぶみ園運営規程の一部を改正する規程について

第7号議案 指定障害福祉サービス事業（指定短期入所）運営規程（しぶみ園）の一部を改正する規程について

第8号議案 令和5年度社会福祉法人小越会事業報告について

第9号議案 令和5年度社会福祉法人小越会決算について

第10号議案 社会福祉法人小越会社会福祉充実残額について

第11号議案 報告 職務執行報告について

第12号議案 令和6年度第1回評議員会の開催について

第2回理事会（書面議決）

開催日：令和6年6月13日 開催通知日：令和6年6月13日 出席：理事6名 監事2名

第1号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第2号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（こしじの里）の一部を改正する規程について

第3号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（こしじの里ユニット）の一部を改正する規程について

第4号議案 指定短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第5号議案 指定短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程（こしじの里）の一部

を改正する規程について

第6号議案 指定通所介護運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第7号議案 指定通所介護運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第8号議案 指定居宅介護支援事業運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第9号議案 指定居宅介護支援事業運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第3回理事会

開催日：令和6年9月25日 開催通知日：令和6年8月29日 出席：理事6名 監事2名

第1号議案 社会福祉法人小越会補正予算について

第2号議案 報告 職務執行報告について

第4回理事会

開催日：令和6年12月11日 開催通知日：令和6年11月20日 出席：理事6名 監事2名

第1号議案 令和7年度建物設備改修工事事業計画及び契約の方法について

第2号議案 報告1 令和6年度中間時報告について

報告2 職務執行報告について

第5回理事会

開催日：令和7年3月12日 開催通知日：令和7年2月19日 出席：理事6名 監事2名

第1号議案 社会福祉法人小越会経理規程の一部を改正する規程について

第2号議案 社会福祉法人小越会給与規程の一部を改正する規程について

第3号議案 社会福祉法人小越会育児・介護休業等に関する規程の一部を改正する規程について

第4号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第5号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第6号議案 指定介護老人福祉施設運営規程（こじの里ユニット）の一部を改正する規程について

第7号議案 指定短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第8号議案 指定短期入所生活介護及び介護予防短期入所生活介護運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第9号議案 指定通所介護運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第10号議案 指定通所介護運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第11号議案 指定訪問介護運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第12号議案 介護予防通所サービス運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第13号議案 介護予防通所サービス運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第14号議案 介護予防訪問サービス運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第15号議案 くらし元気アップ事業運営規程（おごしの里）の一部を改正する規程について

第16号議案 くらし元気アップ事業運営規程（こじの里）の一部を改正する規程について

第17号議案 障害者支援施設しぶみ園運営規程の一部を改正するについて

第18号議案 指定障害福祉サービス事業（指定短期入所）運営規程の一部を改正する規程について

第19号議案 指定共同生活援助（介護サービス包括型）運営規程の一部を改正するについて

第20号議案 報告 職務執行報告について

第21号議案 令和7年度こじの里工事契約の方法について

第22号議案 社会福祉法人小越会補正予算について

第23号議案 社会福祉法人小越会事業計画について

第24号議案 役員賠償補償の加入について

第25号議案 社会福祉法人小越会当初予算について

第26号議案 令和6年度第2回評議員会について

法人監査

令和5年度決算 監事 郷 札子 大橋春昇

実施日： 5月21日 おごしの里、しぶみ工房

22日 法人本部、こしじの里、こしじの里ユニット、しぶみ園

令和6年度中間 監事 郷 札子 大橋春昇

実施日： 11月19日 おごしの里、しぶみ工房

20日 法人本部、こしじの里、こしじの里ユニット、しぶみ園

四 社会福祉法人小越会 経営運営事業執行 体制

◎理事会

◎経営運営会議 理事長 業務執行理事 施設長 本部事務局

◎法人本部

事業	事業の種類	施設名 (定員)
社会福祉事業	第1種	特別養護老人ホーム こしじの里 (50名) こしじの里ユニット (40名) おごしの里 (50名)
		障害者支援施設 しぶみ園 (10名)
		老人デイサービス事業 こしじの里 (28名) おごしの里 (25名)
		老人短期入所事業 こしじの里 (20名) おごしの里 (17名)
	第2種	障害福祉サービス事業 こしじの里 (居宅介護・重度訪問) しぶみ園 (短期) (1名) しぶみ園 (生活介護) しぶみ工房 (就労継続支援事業B型) (20名) かわばた寮 (7名) ひまわりの家 (6名)
		老人居宅介護等事業 こしじの里 おごしの里
		地域活動支援センター しぶみ工房 (10名)
		居宅介護支援事業 こしじの里 おごしの里
		訪問調査事業 こしじの里 おごしの里
		介護保険法に基づく第一号通所事業 こしじの里 (10名) おごしの里 (10名)
公益事業		

※体制に関する名簿は別紙

五 各拠点における組織体制

拠点区分：法人本部

業務執行理事	本部事務局長 松田宏基 所管：法人本部・おごしの里・しぶみ工房
	本部事務局次長 杉本あさ子 所管：法人本部・こしじの里・こしじの里ユニット・しぶみ園

拠点区分：こしじの里・こしじの里ユニット・しぶみ園

統括責任者	杉本あさ子
施設長	杉本あさ子 管理者 伊佐有紀子
総務課	庶務係・財務係・管理係
生活相談課	生活相談係
高齢介護課	介護支援係・入所介護係・短期入所介護係
看護課	看護係・機能訓練係
在宅介護課	通所介護係
	訪問介護係
居宅介護支援課	居宅介護支援係
障害福祉課	生活支援係
給食栄養管理課	栄養管理係・調理係

拠点区分：おごしの里・しぶみ工房

統括責任者	松田宏基
施設長	種部厚子 管理者 久保田輝夫 小川 豪
総務課	庶務係・財務係・管理係
生活相談課	生活相談係
高齢介護課	介護支援係・入所介護係・短期入所介護係
看護課	看護係・機能訓練係
在宅介護課	通所介護係
	訪問介護係
居宅介護支援課	居宅介護支援係
給食栄養管理課	栄養管理係・調理係
障害福祉課	生活支援係・就労支援係

第四 中長期計画

一 課題への取組み

当法人の基本理念は、大きく3つの構成から成り立っています。一つ目は、「『思いやり』のあるサービスの提供、『優しさ』をもったサービスの提供、『愛情』のあるサービスの提供」と私たちが福祉の活動を行うにあたり、その姿勢を示しており、利用者に寄り添う心のケアの実践を目指します。二つ目は、「利用者的人格の尊厳を礎に、利用者本位の福祉サービスを安定した経営環境のもとで提供する」。利用者的人格と尊厳を守れる人材により、安定した持続可能な経営基盤のもと、福祉サービスを継続できるように取り組むことを目指します。三つ目は、「安全で安心できる暮らしの継続をモットーに、地域福祉の拠点として、そして地域のよりどころとしての機能を十分発揮して住民の期待と信頼にこたえます。」。これは、当法人が、地域貢献を社会福祉法人の使命と捉え、事業の透明性を確保しながら、様々な視点から安全と安心を追求し、信頼を高めるよう取り組み、地域生活の継続的な実現に寄与することを目指しています。これを、行動指針に基づき、行動できる人材により、基本理念の実現に向け取り組んでまいります。この度の計画期間は、期間中に2025年、いわゆる団塊の世代が全て75歳以上となる時期と重なることから、今後、高齢者人口がピークを迎える2040年頃に向けて、更なる人口構造の変化や、それに伴う社会環境が変化していく時代に突入していきます。また、生産年齢人口の減少が顕著となり、介護を含む各分野においても人材不足が大きな課題となることや、物価高騰や賃金の引上げなど経済的な影響による事業環境の変化も生じてくるため、当法人の経営における地域課題への対応は避けて通れない状況となります。運営を継続していくためには、安定性や持続可能性を高める取り組みが必要であるため、まずは財務基盤の安定を重点課題として他の目標も長期的視点に基づき継続しながら着実に計画を進めています。

一. サービスの質の向上に向けた取り組み

- 二. 福祉人材の確保・維持
- 三. 財務・資産管理の強化
- 四. 法人運営の持続性の確保

二 中期的な取組み 期間：令和6年度から令和8年度

長期的な課題に対応すべく、介護保険計画年度等に併せ、取り組みを行います。期間は、令和6年度から令和8年度とします。

【目標】

- 一. サービスの質の向上に向けた取組み
 - 1 自立支援・重度化防止に向けた取り組み強化
 - 2 リスク管理に基づく継続的なサービス提供体制の構築
 - 3 地域課題へ対応するための取り組み推進
 - 4 基本理念・基本指針に基づき第三者評価を指標とした自ら取り組むサービスの質の向上
- 二. 福祉人材の確保・維持
 - 1 職員の適正な人員配置及び柔軟な人材活用
 - 2 積極的なICT・介護機器の導入による生産性の向上とデジタル化の推進
 - 3 働きやすい職場づくりに資する実践的な取り組み
- 三. 財務・資産管理の強化
 - 1 収支差額の確保
- 四. 法人運営における持続性の確保
 - 1 地域の実情に応じた持続可能なサービスの展開
 - 2 合理的な法人運営の取り組み
 - 3 内部管理体制の強化と事業運営の透明性の確保

一. サービスの質の向上に向けた取組み

1. 自立支援・重度化防止に向けた取り組み強化

これまでの自立支援の取り組みを踏まえながら、アウトカム評価の充実や LIFE による科学的介護の推進、フィードバックデータの活用に取り組む。

2. リスク管理に基づく継続的なサービス提供体制の構築

感染症や災害への対応力を高め、BCP に基づき継続的にサービスを提供できる体制の構築。事故防止・虐待防止・身体拘束等の適正化など各法令・基準等で求められている事項を法人共通の認識事項として対応。

3. 地域課題へ対応するための取り組み推進

認知症の方や単身高齢者などの利用者が住み慣れた地域において生活を継続するために必要な支援を行う。また、生活保護、虐待ケース等の生活困難者や、各拠点施設における地域内の特徴を考慮したサービスの提供も積極的に対応していく。

4. 基本理念・基本指針に基づき第三者評価を指標とした自ら取り組むサービスの質の向上

第三者評価項目に基づいた取り組みを継続して実施する。また、ある程度の目標がクリアされれば、再度、客観的な評価を受審することも検討する。

二. 福祉人材の確保・維持

1. 職員の適正な人員配置及び柔軟な人材活用

人材の確保が更に厳しい状況となるが、多様な人材の確保や人材をより柔軟に活用するなど、良質なサービスを安定的に提供するための取り組みを推進させる。

2. 積極的な ICT・介護機器の導入による生産性の向上とデジタル化の推進

人材不足の観点ではなく、職員のやりがいや定着につながる職場環境の改善に向けた I C T や介護機器等の活用により、サービスの質の向上や業務負担の軽減に資する取り組みを推進する。また、紙ベースからの脱却を進め、作成や保存に係るコストの削減に加え、電子化・システム化による手続きの効率化に取り組む。

3. 働きやすい職場づくりに資する実践的な取り組み

職場におけるハラスメント防止に対する職員の関心と理解を深めるために必要な取り組みの強化。経営改善や生産性向上の取り組みを通じた成果を職員の賃金に適切に還元していく制度の再構築。

三. 財務・資産管理の強化

1. 収支差額の確保

法人全体での収支差額確保を目指す。

第一 当期資金収支差額の確保(積立支出・比較的大きな修繕・固定資産の購入は加味。)

第二 経常増減差額の確保

事業運営の継続性を維持していくためには、安定した資金確保が必要なため、一定の目標を定めて運営を行う。第 1 の目標として、法人単位資金収支計算書における当期資金収支差額の確保を目指す。ただし、将来に備えた積立、今後、発生する修繕費用、固定資産の購入における支出は加味しながら、収支差額の確保における判断とする。第 2 の目標は、経常増減差額の確保に努める。償却費用が大きいため、可能な限りその留保に努める。

四. 法人運営における持続性の確保

1. 地域の実情に応じた持続可能なサービスの展開

様々な影響が生じることが考えられるため、どのような影響が生じるかを見据えながら、必要なサービスが切れ目なく提供されるよう地域の特性や実情に応じた柔軟かつ効率的な取り組みを推進する。

2. 合理的な法人運営の取り組み

法人運営においても必要なサービスはしっかりと確保しつつ、サービスの適正化・重点化を図り、経営の安定性・持続可能性を高める。

3. 内部管理体制の強化と事業運営の透明性の確保

法人業務を適正に実施する体制を維持し、法人としての目的を有効かつ効率的に実行する。

コンプライアンス遵守、リスク管理、ガバナンス強化、不正防止等のため事業運営の透明性を確保する。

第五 令和6年度事業実績

一 法人全体・本部

[法人全体]

一. サービスの質の向上に向けた取組み

令和6年度の介護報酬改定における重点事項にも位置付けられております自立支援・重度化防止の取り組みについて、法人内事業所において科学的介護情報システム LIFE の活用による取り組みを推進しました。フィードバックデータの活用やアウトカム評価の状況は事業所ごとに進捗状況に差はありますが、データの蓄積により効果的な介護サービスを提供するための指標とし、ケアの質や技術の向上に向けて継続して取り組みを行います。また、介護機器・ICT 機器の導入を進めたことにより、ご利用者の生活の質の向上や安全性を高めることができます。引き続き導入機器の有効的な活用方法の検討や新たな機器の導入に向けた研究を進めていきます。リスク管理については、今年度から業務継続計画に基づく訓練や研修の実施が義務付けられたため、災害や感染症対策について、より実践的な対応ができるよう BCP の周知等の取り組みを行いました。また、虐待や不適切行為の対応については、指針に基づき未然防止の取り組みや内部研修を行いながら、不適切な行為が見受けられた場合には速やかに行政に通報相談し判断を仰いでおります。コロナ以降ご家族がご利用者と関わる時間が減少している状況も見られるため、サービスの透明性やコミュニケーションの向上を目的とした情報共有システムメルタスファミリーを導入し、ご家族へのスムーズな情報発信により安心感を高めることができます。しかし全てのご家族が利用していないため、システムを利用されていない方にも丁寧な情報伝達を行います。

二. 福祉人材の確保・維持

人材の確保については、新卒採用活動を新規高卒者まで拡大し行いましたが新卒者確保には至りませんでした。年々介護の求職者が減少している状況もみられており採用活動も厳しい状況ではありますが、活動を継続していくことで学校関係者との繋がりを築いていけるよう努めてまいります。中途採用者の確保についても応募はありましたが採用まで繋がらないケースも増えている状況です。そのため、サービス供給の調整を行いながら、利用者数に応じた適正な人員配置や事業所間の柔軟な業務連携により必要なサービス体制を確保しております。有資格者の減少もある中でも資格取得の支援を継続して行い、新たに資格取得者も増やすことができております。将来的な人材確保も考え方外国人材の活用についても検討を始めております。人材だけではなく介護機器・ICT 機器の導入によりサービスやコミュニケーションの向上を図ることができており、働きやすい職場環境の整備も進めております。今後も機器の活用により生産性の向上や負担軽減が進められると期待しております。これまでの取り組みや法人の魅力を上手く情報発信できるよう、ホームページやSNS等を活用した広報活動が今後の課題となります。また、最低賃金の改定により賃金の引き上げが促進されているため、報酬上の加算や補助金を活用し、調整額手当の増額や初任給の引き上げを実施いたしました。

三. 財務・資産管理の強化

収支状況については、サービス利用実績の減少や職員の変動により当初計画に対して差異が生じました。事業費については、サービス実績の減少により一部の経費は減少しましたが、光熱水費や燃料費等の固定経費の増加の影響があり前年とほぼ同額の執行となっております。事務費支出については、給食の業務委託化による経費や不測突発的な事象による修繕費の発生があり大幅に増加したため、結果的には法人全体の資金収支並びに事業活動収支については昨年度よりもマイナス額が増加となりましたが、障害福祉サービスが安定した実績を残せたため、全体のマイナス額を抑えられました。次年度大規模な改修工事が必要となっているため、積立金を充当し事業を実施する計画をいたしました。そのため、今後もまた将来的な積立をしていく必要がありますので、計画的な財務管理を行い、収支差額の確保に努めます。施設整備の事業については、介護機器・ICT 機器の導入を優先的に執行しながら、こじいの里しぶみ園においては、次年度の給食業務委託に向けての設備

変更、照明 LED 化工事、既存の消雪井戸の送水管・電線管の撤去工事などを行っております。おごしの里しぶみ工房では、ディサービス給湯ボイラーの更新工事、火災受信設備の更新、生産活動用軽トラックの整備などを行っております。

四. 法人運営における持続性の確保

法人における会議等の開催状況は、評議員会については2回、理事会については書面も含み6回開催しております。法人本部を中心とした運営体制により各拠点との情報集約を円滑に行うことができております。経営状況が厳しい中、毎月の経営運営会議においても将来的な事業運営の在り方や方向性を検討し、地域や社会状況の変化に合わせたサービス展開や各拠点の実情に合わせた事業の検討を継続して行いました。近年は社会問題の変化や新たな問題への対応も増加しているため、法人運営上の手続きも煩雑化しております。そのため、これまでの固定観念を新たな視点や柔軟な考え方により法人運営に係る手続きを見直し、効率的な事業運営や業務執行を目指し検討を行いました。法人運営の持続性を確保するためには、財務的安定性の確保や危機管理は重要な側面でありますので、中長期的な目標の達成に向けた課題への取り組みを着実に進めていきます。

[法人本部]

理事会、評議員会の開催計画・執行、定例会の経営運営会議の開催を中心に運営いたしました。介護報酬並びに障害福祉サービスの改定年度となるため、改定事項への対応や新たな基準によるサービス体制の構築を行っております。採用活動については、民間企業などの就職情報サービスを活用しながら、高卒、大卒、専門学校卒業者に対して採用活動を行っております。年々福祉業界の求職者が減少している状況も見られるため、外国人介護人材活用のための相談会や施設見学会などへ参加し、多様な人材確保に向け情報収集を行いました。働きやすい職場づくりを推進するため、管理的立場の職員に対するハラスマント防止やメンタルヘルスなどの研修を実施しております。また、育児介護離職を防ぐための職場環境整備として規程の改正を行い、柔軟な働き方を実現するための措置を拡充いたしました。業務管理体制については、労働基準監督署からの立ち入り検査の実施があり、時間外労働などの労働時間の端数処理等について改善を行いました。また、労働局から労働者派遣法に基づく助言指導があり、契約内容等の確認がありましたが改善事項等はありませんでした。引き続き法令遵守に努め適切な労務管理を行います。

二 実施拠点

1 こじじの里・しぶみ園

介護老人福祉施設（従来型・ユニット型）

障害者支援施設（短期入所）

短期入所生活介護（介護予防）

通所介護（総合事業）くらし元気アップ事業

訪問介護（総合事業）居宅介護 重度訪問

居宅介護支援 介護保険法に定める訪問調査

【取組事項】

○サービスの質の向上に向けた取組

■必要なサービスを速やかに提供できる仕組み作り

【課題と方針】

長期入所申込者数が3年間（R3年～R5年）で約4割減。有料老人ホーム等、高額の入所系施設の利用者の増加も一因であると考える。また、待機者数の減少は在宅サービスの稼働とも連動しており、利用者の施設入所に伴い、在宅サービスの稼働低下にも繋がっている。

社会福祉法人においては、県条例の示す入所指針に基づき、入所判定会議で次入所者を決定。その後、関係職種の事前訪問、サービス契約説明等があり、入所に至るまでに最低でも1週間から10日間程度の時間を要している。事務処理手続きの煩雑さが稼働低下の要因の一つにもなっていると考える。

【目標】

・身寄りなしや虐待ケースなどの困難ケースを躊躇することなく受け入れができる体制にす

る。

- ・契約処理の簡素化を図り、サービス提供までにかかる日数を減らす。

【取り組み状況・成果】

入退所数は従来が16名、ユニットが15名でした。契約終了から新規受入れまでに要した日数が平均して26日でした。入退所の時期が重なり、受入れ業務が滞ったこと、加えて令和6年度は複数の担当者が入所受入れ業務に携わる体制となり、業務が煩雑化したことが稼働低下の一つの要因であると考えています。利用者の情報は介護記録ソフトウェアに集約して情報の一元管理に努めました。情報共有の容易化を目指し、令和6年度からはクラウドサービスを活用し、サービスに関する情報管理・共有も始めました。基幹包括や地域包括、居宅介護支援事業所から身寄り無しや独居、虐待といった困難ケースの相談依頼が7件ありました。そのうち1件は対応ができないと判断し断わりました。

■LIFEの活用やサービス関連の基準・加算項目の運用によりアウトカム評価の結果を出す

【課題と方針】

令和4年度 LIFE 登録したが、サービスに活かしきれていない。利用者の状態評価は役付職員を中心となって実施。評価判断基準は徐々に職員間で統一されてはいるが、全職員が同じ判断基準までには至らず、LIFE 入力作業なども一部の職員に偏っている。LIFE 項目 (ADL の推移等) を活用した多職種のケア会議やケアプラン作成には至っておらず、職員間で活用しきれていない状況がある。その結果、お世話型の介護から脱却できずにいる。また、サービス関連の基準・加算項目における運用においても、例えば、口腔ケア、栄養ケア、褥瘡予防、入浴に係る事項など取り組みを始めている内容についても評価から結果に繋がるサイクルに至っていない。

【目標】

- ・アウトカム評価の結果を出す

【取り組み状況・成果】

現在、従来型、ユニット型、デイサービスにおいて LIFE に関する加算算定を行っています。アウトカム結果の指標の一つである、ADL 維持等加算は3事業所が加算算定申請し、結果、ユニットにおいては ADL 維持等加算の利得3.6を獲得することができました。(令和5年12月～令和6年11月) 従来型とデイサービスは利得の獲得ができませんでした。利得が得られるように、モニタリングやカンファレンス時に、BI に基づく、LIFE 項目の ADL 推移を確認し、自立につながる支援の展開を行っております。

■不測の事態が発生しても、損害を最小限に抑え、速やかに事業再開できる組織にする

【課題と方針】

感染症や自然災害が発生した場合の業務継続計画 (BCP) は策定済みであるが、職員一人ひとりが BCP に基づき行動、実践できるまでには至っていない。当施設においては令和5年度に新型コロナウイルス感染症のクラスターが3回 (デイサービス、ショート、従来型) 発生。また、令和3年12月には大雪による災害が発生し、サービス利用者の安否確認や施設内においては停電の中でのケアに追われた。これらの経験を踏まえて、感染対策委員長、災害対策委員長等が不在時においても、全ての職員が適切な初動対応ができると共に、災害や感染症のクラスターの発生等により、事業継続に支障をきたす事態にあっても、できるだけ速やかに事業を再開できるような人材育成が必要である。

【目標】

- ・職員一人ひとりが BCP を実践できる力を付ける

【取り組み状況・成果】

令和6年度も防災フェスティバルを開催しました。感染症及び災害に関する BCP 研修はそれぞれ2回開催しました。その他、PPE 着脱やノロウィルス感染症発生時の初期対応といったシミュレーション研修、原子力災害訓練等を年間計画に基づき実施しました。研修後には職員の理解度を図るアンケートを実施し、「理解した」と回答した職員が7割でした。昨年度の研修結果と比較して、理解度は上がっていますが、「実践に不安がある」と回答した職員が2割程度いることから、令和7年度は実践型の研修に注力した研修を計画しました。

■リスクを予測し、行動でき、不測の事態を最小限に防ぐ

【課題と方針】

令和3年度～令和5年度にかけて、基幹包括支援センターへ相談した不適切ケアが3件。また、介護手順の間違いにより、医療機関での治療を要した事故が2件発生した。事後対応ではなく、不測の事態を予想し、対応できる職員の育成により、発生件数を減らせる可能性がある。法人の各種指針と各法令、運営基準等について、職員一人ひとりが理解を深め、実務に確実に反映させ、適正な事業運営に努めていく。

【目標】

- ・法人の各種指針と関係法令、運営基準等を職員一人ひとりが身に付けられる。
- ・事案発生時は継続して適正に対応する。
- ・不測の事態を防止する環境作り。

【取り組み状況・成果】

令和6年度は行政報告を要した事故が3件、基幹包括支援センターへ相談した不適切ケアが1件発生しました。法人研修、園内研修の他、各事業体でも委員会活動を通して事故防止、身体拘束適正化、虐待防止の研修を実施しました。研修では実践的な安全対策が学べるように、園内で発生した事例の振り返りを行い、再発防止に努めました。また、令和7年2月にインカムを7基増やし、介護職員だけでなく、相談課、看護課も使用できるようにしました。多職種間で利用者の状態変化やリスクの早期発見といった情報共有を図り、職員間のコミュニケーションの強化が高められるように環境を整えました。

■新たな医療体制、医療連携の構築

【課題と方針】長期課題

国からはコロナ禍以降、高齢者施設等と医療機関との協力体制、医療連携の強化を強く求められている。現在、当施設においては、嘱託医が白山診療所、協力医療機関は長岡中央病院、歯科はすずらん歯科との連携体制にある。しかし、国が求める、利用者の園内における療養かつトリアージの判断や協力医療機関との入院調整を行うまでの連携体制は脆弱である。医療連携体制が整えられるように、地域の医療機関への働きかけが必要であると考える。

【目標】

- ・協力、連携できる医療機関を増やす。
- ・現行の協力医療機関との連携が継続できる。

【取り組み状況・成果】

令和6年10月1日付で長岡西病院と協力医療機関としての契約を締結しました。10月からは協力医療機関連携会議を毎月実施し、入院者の状況やご利用者の現病歴について、病院のMSWと共有を図っています。居宅介護支援事業所においては、病院からの新規依頼は積極的に受け入れ、令和6年度は5件契約締結しています。入院時連携加算Iは15件、IIは13件（計28件）算定しました。令和5年度の入院時連携加算Iは31件、IIは5件（計36件）と、前年比で入院時連携加算Iの算定が少なくなっていますが、入院当日に情報提供することが難しい中においては、適切に医療機関へ情報提供できたと考えています。

○福祉人材の確保・維持

■ICTの活用と適材適所の職員配置を行い、仕事の生産性をあげる。

【課題と方針】

LIFEを活用した科学的介護の取組み、多様な福祉機器や既存の記録システムを活かした連携ネットワーク、メルタスを導入。新しい福祉、介護の提供体制が整いつつある中、対応しきれない職員が出てきている。逆に、福祉機器の活用は得意だが、コミュニケーションが苦手な職員もいる。介護とその補助的業務の整理により、短時間職員と一般職員との業務が明確化することはできた。今後は、働き方の形態による業務のすみ分けではなく、職員一人ひとりが持つ能力を活かした業務整理により、仕事の生産性が上がり、限られた人員体制でも、質を落とすことなくサービスが提供できると考える。

【目標】

- ・こじの里、しぶみ園職員としてのサービス基準を明確化し職員に示す。
- ・全職員の介護、福祉のスキルを標準化し、人事考課と連動させ、評価結果を職員へフィードバックできる仕組みを作る。
- ・リハビリの専門職や歯科衛生士等の専門職の採用。
- ・介護支援専門員有資格者を増やす。
- ・限られた人員で業務を行う仕組みづくり。

【取り組み状況・成果】

令和6年8月に特養、併設ショートにおいて眠りスキャンの全床導入とインカムを取り入れました。機器の導入により、特に夜間帯における巡回は利用者の安全性の高まりと職員の負担軽減に繋がりました。また、インカムの導入により、職員が施設内を無駄に移動することがなくなり、必要な情報が共有できるようになりました。眠りスキャン導入により、得られた利用者の情報をもとにした、個別のケアプラン作成に努めています。また、令和7年1月からは利用料請求書・領収書を家族連携アプリのメルタスファミリーを活用し、データでの受け取りを開始しました。結果、特養においては54%、在宅サービスにおいては50%が電子データに切り替わり、紙、印刷、郵送代の削減と時間の節約、業務の効率化に繋がりました。また、居宅介護支援事業所においては、8月から職員体制が4人から3人に変わりましたが、タブレットの活用や家族連携アプリのメルタスファミリーを活用し、業務の効率化を図り、一人当たりの受け持ち件数も令和7年3月時点で36.5件を維持しています。利用者及び家族には電子化への移行の理解が得られるように、丁寧な説明を心掛けています。令和6年度は介護支援専門員2名と介護福祉士1名が合格しました。

■人材育成の強化1

【課題と方針】

課長、係長クラスの職員の平均年齢が51歳であり、次世代の役付き職員の育成が必要である。現行のリーダー職員は各々の専門職業務にかけては優秀ではあるが、マネジメント能力が弱い。そのため、次世代育成に繋がらず、業務を抱え込んでいる現状がある。リーダーには、部下のマネジメントに注力してもらうように働きかけると共に、20代、30代といった若手職員に法人の運営や経営について知つてもらう機会を作り、次世代を育成の体制を整える。

【目標】

- ・職員の育成と労務管理ができる職員を増やす

【取り組み状況・成果】

令和6年度は運営会議、生産性向上委員会と次世代を担う職員が運営や経営に関する会議に参加できる仕組みが構築できました。運営方針、事業の目的を説明したうえで、現場の意見を聞きながら、福祉機器の購入や運用の方法について話し合い、職員の気づきやアイディアを運営に取り入れました。次世代育成のため、ジョブローテーションの幅を広げ、若手職員の経営会議の場への出席も計画しています。

■人材育成の強化2

【課題と方針】

人材の確保が困難な状況の中で、学生、中途職員と幅広く採用については、対応しているが、今後、さらに就労希望者の絶対数の減少が見込まれ、今まで以上に人材の確保は難しくなっている。その中で、採用の入り口の幅(多様な人材、採用手法)を広げて、無資格、未経験、文化の違いなど幅広く受け入れていく必要があり、育成の仕組みを再構築する必要がある。

【目標】

- ・多様な人材を育成する仕組みづくり

【取り組み状況・成果】

移乗用リフトは使用方法が標準化されているため、新人職員の教育や指導が容易となり、短期間で職員が必要なスキルを習得できるようになりました。令和6年度は新たに、眠りスキャンとインカムの使用方法についても新人教育のプログラムに組み入れました。OJTにおいては、インカムにより、指導職員にすぐに質問ができる仕組みが整いました。現任職員に対しては、福祉機器の使用方法の定期的な研修の実施や機器の活用により業務内容を見直し、精神・身体的負担軽減が図られるよう

にしました。多様な視点での人材育成のため、福祉機器の更なる活用に努めています。令和6年9月には2名の留学生インターンシップを5日間受入れ、12月には留学生インターンシップ受け入れ企業として長岡市に登録しました。

○財務・資産管理の強化

■収支差額の安定確保

【課題と方針】

現状、こじいの里しぶみ園における3拠点においては、事業活動(経常的な)収支において令和4年度決算期まで令和5年度決算見込みにおいても合計における収支差額は確保できる見込みであるが、稼働率の低下による収入の減少や退職職員等により体制に関わる加算の算定など難しくなっている。収入と支出のバランスを適正に図り、継続的な経営に取り組む。

【目標】

3年間における収支差額の確保

- ① 従来型2%、ユニット型7%、しぶみ園1%
- ② 3拠点合計額による確保

※支出金額が係る修繕や購入においては、考慮する

【取り組み状況・成果】

当年度においては、上記目標は達成されませんでした。しぶみ園においては、報酬改正がプラスに影響し、10%以上のサービス活動増減差額が確保できましたが、介護保険事業においては、従来型拠点、ユニット型拠点においてマイナスとなる結果になりました。ユニット型拠点区分においては、修繕費が昨年度より200%となり、この点を考慮すれば、マイナスには至りませんでした。従来型特養においてもマイナスとなり、修繕費を控除しても未達成でした。要因としては、年度当初に人員の補完ができず、特に在宅サービス供給体制に影響を与えていましたこと、従来型・ユニット型特養における入院の長期化が挙げられます。これにより3拠点の合計においても結果としてはマイナスとなりました。こじいの里しぶみ園所管拠点区分における収支のバランスが当年度かなり変動したため、柔軟な職員体制の構築づくりに努めましたが、結果がでるまでには至りませんでした。

○その他

■地域とのつながり再構築

【課題と方針】

コロナ禍において地域との関係性が希薄している。人口が減少していく中で、あらためて施設としてできることを検討する。

【目標】

- ・地域との繋がり再構築

【取り組み状況・成果】

地域のボランティアと共に長岡市花いっぱい運動に取り組みました。10月4日には福祉施設体験教室として越路西小学校の児童17名を受け入れました。出前講座は5月に1件、3月に2件、地域に出向いて講座を開催しました。また10月16日には令和7年度から義務化される障害者支援施設の地域連携推進会議を開催しました。地域の関係者、有識者、利用者、家族から参加してもらい、園内を見学してもらいました。コロナ禍以降、停滞していた行事やボランティア活動、面会や家族との外出・外泊ができるように積極的に支援し、しぶみ園においては年間で外出支援が64件、外泊支援は1件でした。

2 おごしの里・しぶみ工房

介護老人福祉施設（従来型）

短期入所生活介護（介護予防）

通所介護（総合事業） くらし元気アップ事業 オレンジカフェ事業

訪問介護（総合事業）

居宅介護支援 介護保険法に定める訪問調査

就労継続支援 B型 地域活動支援センター
共同生活援助（かわばた寮・ひまわりの家）

【取組事項】

○サービスの質の向上に向けた取組

■必要なサービスを速やかに提供できる仕組み作り

【課題と方針】

拠点地域課題でもあるが独居、老人世帯割合が多く、在宅サービス利用時や施設入所時に協力者が得られない事例が多い。地元地域住民からの施設入所を進めたいが対応に苦慮する場合もあることから、稼働状況向上のため広域申込者の施設入所にも積極的に取り組んでいる状況。困難事例への対応力育成、向上が課題。

感染症発生時のサービス提供では一事業で感染発生した場合、併設型 SS と DS どちらも利用している事例が多く、代替サービス側の利用受入基準、SS 受入体制、発生後の速やかな再開のために必要な環境調整（SS 居室、共用トイレ）等が課題。

【目標】

- ・困難事例への対応力の育成、向上

【取り組み状況・成果】

困難事例への対応として独居世帯や高齢者世帯、周囲からの介護協力が難しい事例の受け入れの他、特養入所ではネグレクト事例 1 件を受け入れました。対応力の育成のためヤングケアラー等研修、成年後見制度研修、ひきこもり相談支援研修等に参加。職員の資質向上にも取り組みました。感染症発生時の対応では、代替サービスを提案しながら利用を継続できるようサービス再開までの支援に努めました。サービスの質の向上への取り組みでは、ご利用者満足度調査を実施。多くのご利用者、ご家族より話をよく聞いてくれて気持ちが楽になった等の声が寄せられました。引き続き個々のニーズを把握し、ご利用者に寄り添うケアを進めます。しぶみ工房においては、身寄りのない方 1 名をグループホームで受け入れました。まず金銭管理を社協にお願いし、最短で入居できるように準備を進めました。今後成年後見制度の利用等を進め、幅広く対応できるようにあらゆるニーズに備えます。

■LIFE の活用とアウトカム評価の結果を出す

【課題と方針】

LIFE 加算算定取得に至っていない

【目標】

- ・特養での算定開始 R6. 9 月を目指す

【取り組み状況・成果】

加算算定に関して算定可能な加算の研究により、科学的介護推進体制加算 I と栄養ケア強化加算を目標の 9 月には間に合いませんでしたが 11 月から算定開始、その他にも協力医療機関連携加算、生産性向上体制加算等各種加算の算定を開始しましたが、フィードバックデータ活用までには至らず。今後は生産性向上委員会開催時を情報共有の機会とし、定期的に多職種で情報収集、職種間でデータの変化を確認。得られた気づきを共有しながら、ケアの振り返りや改善に向けた活用につなげていくことができるよう取り組みを進めます。

■不測の事態が発生しても、損害を最小限に抑え、速やかに事業再開できる組織にする

【課題と方針】

感染症集団発生時の実績低下、休業時の出勤体制（利用者数に応じた契約職員出勤体制の検討）、休業期間短縮が課題

【目標】

- ・感染拡大防止への取り組み強化、速やかな再開を目指す

【取り組み状況・成果】

デイサービスではご利用者の感染事例がみられたため、感染症対策委員会開催後、職員間での情報共有、まん延防止対策を実施。10 名以上の集団発生に至らず、損害も最小限に抑え終息させることができました。感染対策開始の事前準備として、感染症対策委員会開催時に初動対応で使用する感染症緊急キットの確認、対策物資の定期点検を実施し、不測の事態であっても適切に対応できるよう対策を講じました。しぶみ工房では、後期において B C P 訓練を行いました。今後も B C P 訓練を通して現実に即した課題

の拾い出しや対応方法の再検討を行うことで、事業の継続に努めます。

■リスクを予測し、行動でき、不測の事態を最小限に防ぐ

【課題と方針】

不測の事態が発生した場合であっても適切な対応により、不適切ケアや速やかな苦情処理により対応に苦慮している事例はみられていない。今後も全職員が適切に対応できる技術力の維持、向上が課題。

【目標】

- ・緊急時に適切に対応し、状況の改善や課題解決ができる

【取り組み状況・成果】

身体拘束適正化、虐待防止委員会の活動により適切にケアを実施し、不適切ケアの事例はみられず。職員の対応力向上のため虐待防止外部研修参加後、各部署での伝達研修、日々のケアを振り返る機会を設けました。苦情対応では申出内容の事実確認実施後、適切な説明、対応に努めました。解決後には対応の振り返りの機会を設け、今後の対応改善に向けた取り組みを継続しました。事故防止では就業中の労働災害発生防止のため、労働災害防止研修に参加。衛生委員会による転倒予防のための情報発信、定時の体操等予防対策を継続し、災害発生防止の取り組みを進めました。災害対策では、市要配慮利用施設情報伝達訓練へ参加し、緊急時に適切に行動できるよう夜間帯の連絡手順や体制を再確認しました。また災害対策事前準備として、災害時備品・備蓄品点検、停電時対応手順を確認。原子力災害時における屋内退避行動手順確認訓練も実施し、ご利用者の安全確保、有事の対応力育成に努めました。しぶみ工房では作業手順や資材の置き場などを見直し、職員で共有することにより、環境によるリスクの低減を図ることができました。また、災害に対する対応や備えに関しても話し合いを進めることができ、今後は訓練にも力を入れて取り組みます。

■地域特性に応じたサービス提供体制を維持する

【課題と方針】

特に併設型 SS、居宅介護支援では他事業所が対応困難な上小国地域等利用者の受入体制維持が課題。しぶみ工房では、地域での引きこもり等事例が多いとの情報があるもののサービス利用には至らず、グループホームでは定員数に応じた利用者確保が課題。

【目標】

- ・他事業所が対応困難な上小国地域等利用者の受入体制継続
- ・障害福祉サービス事業所登録者、グループホーム利用者増

【取り組み状況・成果】

居宅介護支援、併設型 SS では、上小国地域等利用者の受け入れに積極的に取り組んだ結果、併設型 SS の新規利用において小国地域等利用者の割合が前年度は 39.1% であったのに対し令和 6 年度では 55.5% に増加しました。訪問介護事業では、サービス提供を継続するための人員体制確保が困難なため事業休止することとなりましたが、ご利用者に休止の説明を行い他事業所への利用意向のお願いを実施する等適切な支援に努めました。グループホームでは 2 名の方が入居されましたが、いまだ欠員が 2 名の状態となっています。引きこもりの方に関しては、民生委員との交流時に情報の提供を求めましたが、思っていた成果はみられませんでした。今後も地域のよりどころとなる施設づくりを進めていきます。

○福祉人材の確保・維持

■ICT の活用と適材適所の職員配置を行い、仕事の生産性をあげる。

【課題と方針】

介護機器等の活用を継続し、介護職員体制維持

【目標】

- ・介護機器等の活用により介護負担軽減し、生産性向上を目指す

【取り組み状況・成果】

見守り支援センサーカメラ台数 2 台増設により事故防止への効果がみられ、事故件数は前年度より 17 件減少。また、移乗、移動中の転倒転落事故の割合も減少しました。機器使用により、起き上がり等危険動作を検知。プライバシーに配慮されたシルエット画像通知から、職員が常時携帯しているインカム端末画面上で危険度の判断が可能となり、最適なタイミングで訪室し適切な対応ができるご利用者の安全確保につながっております。また訪室時間削減、夜勤時の負担軽減、職員間での連携が円滑となり精神的負担の軽減への効果も出ています。定期開催の生産性向上委員会の機会を活用し、ご利用者の安全及び

ケアの質の確保の現状確認、職員の負担軽減、介護機器の定期点検、機器を安全に活用するための職員研修を実施。ご利用者の安全確保や生産性向上への取り組みを進めました。その他、SNS活用の取り組み事例を学ぶ等、ICT講習会に参加。地域への情報発信のための新たな手法に関する取り組みを開始しました。

■人材育成の強化

【課題と方針】

新卒採用に苦慮しており、中途採用を中心に採用活動を継続。専門職確保も課題。

【目標】

- ・中途採用活動に重点を置き、人員体制を維持

【取り組み状況・成果】

派遣会社活用、ハローワーク求人の活用等採用活動を進めながら有資格者1名の採用につなげることができました。退職者数に応じた人員数を確保できるまでには至っていないため、介護人材受入制度説明会等に参加し情報収集する等、外国人材も含めた多様な人材受入体制づくりの検討も進めました。しぶみ工房では委員会や研修に通して専門性を高めることができました。しかし、グループホームの世話人に対する研修や勉強会の機会がないため、施設職員としての意識付けや資質の向上を図るための研修の必要性があります。通常の業務を行う上で必要な障害者に対する理解や知識を得られるよう研修を進めます。

○財務・資産管理の強化

■収支差額の安定確保

【課題と方針】

前計画期において人員の採用が進み、安定したサービス提供を開始した矢先にコロナ禍に突入。利用の減少や職員の退職がはじまり、収入が前計画期より5%減少、人件費率は80%を超えており、そのため経常収支差額の確保ができず、将来的な繰越額の減少が止められない状況。前計画期間の稼働までは戻せていないため、サービスの需要と人員配置のバランスを図り、適正な配置による業務遂行を行う新たな体制の構築を進めていく。

【目標】

- ・前計画期以上のサービス利用率
- ・適正な人件費率の維持
- ・経年による修繕が増加するため施設機能を維持していくための経費を確保

【取り組み状況・成果】

退職者があるものの人材確保が厳しい状況のため、業務内容に応じた契約職員の柔軟な配置を実施し人件費は減少。また、収入増を目標に加算算定への研究を進め特養では新たに3種の加算算定を開始しました。施設設備では、経年劣化によるボイラー更新。冷房設備更新の必要も生じ、次年度計画的に実施予定。床暖房設備維持のため、メンテナンス点検実施。現時点で特に問題なく使用できており機器異常がみられない事を確認することができました。引き続き、サービス利用率の維持、施設設備維持のため計画的な経費執行、経費確保への取り組みを進めます。しぶみ工房では、利用率はわずかに目標に届いていないため、減収にならないように利用率の維持向上を続けて行きます。また、生産活動収入が大きく目標値を超えており「平均工賃月額区分」のステージアップを目指し取り組みを進めます。

○その他

■地域とのつながり再構築

【課題と方針】

くらし元気アップ事業に個人ボランティア参加があるものの、地域のボランティア団体としての活動が途絶えた状況（おごしの里）がある。一方で地域貢献活動として出前講座への職員派遣、地元の中学校地域貢献活動受け入れ、施設訪問受け入れ、避難訓練への地域住民参加、集落の奉仕活動参加（しぶみ工房）は継続できている。

【目標】

- ・地域とのつながりの再構築

【取り組み状況・成果】

介護予防出前講座では新規依頼もあり認知症予防、口腔ケアに関する内容等地域の方々からの要望に応

じた内容を実施。引き続き次年度の依頼をいただく等、地域とのつながりを改めて実感できる活動実績となりました。また、新たに職場体験学習2名の受け入れを実施。高卒就職希望者への採用活動を継続しているものの採用実績につながらない現状があるため、高等学校からの職場体験の受け入れ等、人材採用につながるよう活動を継続してまいります。その他、地域での活動では小国地域福祉懇談会や地域づくり部会等に参加。地域で世代を超えて助け合う仕組みづくりが大切なことを改めて学びつつ、多世代での交流の機会づくりや地域とのつながりを深めることができました。しぶみ工房では地域連携推進会議の今年度中の開催を目指していましたが、開催することができませんでした。来年度は開催が義務化されることから計画的に進めて行き、地域連携推進会議を通して地域の方とのつながりと風通しの良い施設作りを行っていきます。小国地域の民生委員による見学と交流会を行うことができ、しぶみ工房を知っていただけるこの取り組みも次年度以降継続し収穫祭等の行事にもっと地域の方から参加いただけるように周知を進めます。

第六 各拠点における主な活動実績等

一 法人本部

月	主な活動と内容	その他
4月	10日 経営運営会議	
5月	8日 経営運営会議 21日・22日 法人監査 29日 理事会	30日 長岡労基署立入検査
6月	5日 経営運営会議 13日 評議員会 理事会（書面）	5日 法人研修 職場におけるハラスメント防止 講師：パートナーズプロジェクト特定社会保険労務士 大谷実氏 9日 県社協福祉しごとフェア
7月	10日 経営運営会議	11日 高卒求人企業説明会 24日 新潟労働局訪問指導 24日 法人研修 リスクマネジメント 講師：新潟青陵大学助教 宮淑恵氏
8月	7日 経営運営会議	21日 法人研修 メンタルヘルス 講師：新潟青陵大学准教授 齊藤恵美氏
9月	4日 経営運営会議 25日 理事会	4日 法人研修 福祉施設における身体拘束廃止・虐待防止 講師：新潟青陵大学准教授 里美佳香氏 26日 県内外大学等長岡市内企業情報交換会
10月	9日 経営運営会議	23日 新潟県外国人介護人材受入施設見学会 28日 看取りケアについて 講師：介護労働安定センター 吉井靖子
11月	6日 経営運営会議 10日 苦情報告会 19日・20日 法人監査	25日 認知症の理解 講師：介護労働安定センター 大瀧厚子 26日 新潟県外国人介護人材合同相談会

12月	4日 経営運営会議 11日 理事会	
1月	8日 経営運営会議	
2月	5日 経営運営会議	
3月	5日 経営運営会議 12日 理事会 21日 評議員会	7日 長岡市外国人介護人材に関する 情報共有会 14日 長岡市就職ガイダンス

※評議員会 定例会 6月 臨時会 3月 他 審議事項が発生した場合開催
理事会 四半期ごとに業務報告 これに併せ、審議事項が発生した場合開催

○役員賠償保険加入状況

保険会社：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

加入保険：役員賠償責任保険

支払限度額：基本補償 100,000千円 (1事故もしくは、保険期間)

コンサルティング費用 10,000千円

免責金額 なし

補償対象者：法人のすべての役員（理事・監事）、評議員
および施設長等の重要な役割を担う従業員

支払保険金：法律上の損害賠償金 争訟費用 初期・訴訟対応費用

保険料：103,380円（年間保険料）
(全額法人より支出し)

二 こじの里しぶみ園活動実績

主な事項

- 4月23日 移乗用リフト「ささえ手」デモ
- 4月24日 地域連絡会議
- 4月30日 眠りスキャン 従来型特養短期28台設置 ユニット20台設置
- 5月15日 出前講座「小国七日町」
- 6月24日 長岡こども介護医療専門学校実習生1名受け入れ（～28日まで）
従来利用者意見交換会
- 6月 3日 長岡崇徳福祉専門学校実習生2名受け入れ（～10日）
- 7月 5日 消防署立入検査
- 7月18日 消火器訓練（消防署立ち合い）
- 8月 6日 クリアトークカム導入18台
- 8月26日 眠りスキャン全床導入
- 9月 2日 施設看板撤去
- 9月 8日、15日 デイサービスLED工事
- 9月 9日 東洋大学留学生インターナンシップ2名受け入れ（～13日まで）
- 9月12日 パソコン入れ替え
- 9月19日、20日 消防防災設備機器点検
- 9月25日 従来型利用者意見交換会
- 9月27日 貯湯槽点検、ユニット型利用者意見交換会
- 9月30日 受水槽点検
- 10月 2日 不在者投票 長岡市長選挙

10月 5日 県身体障害者協議会上中越地区スポーツ交流会しぶみ園参加
 10月 16日 地域連携会議 しぶみ園
 10月 23日 ミスト浴デモ
 10月 24日 不在者投票 衆議院議員選挙
 10月 27日 総合防災訓練
 11月 8日 消雪パイプ工事
 11月 12日 リフト浴デモ、厨房ガスコンロ工事
 11月 24日 LED工事 デイサービス 従来型（多床室1）
 11月 28日 やすらぎの里 ICT機器見学、ハローワーク介護離職デイ参加
 12月 4日 ユニットトイレ改修工事
 12月 20日 ユニット意見交換会
 12月 25日 従来意見交換会
 1月 9、10、14、15日 床清掃
 2月 19日 AED取り扱い訓練
 3月 18日 自動ドア保守点検
 3月 14日 ユニット意見交換会
 3月 21日 LED工事従来型大食堂、厨房、従来型（多床室1）
 3月 25日 小国なのかまち出前講座
 3月 26日 従来意見交換会 廉價設備（プラスチチラー）搬入

行事・見学等

4月 19日 介護相談員
 5月 8日、23日 介護相談員
 6月 5日、19日 介護相談員
 6月 13日 喫茶ひまわり
 7月 4日 喫茶ひまわり
 8月 5日 物故者法要
 8月 9日、26日 介護相談員
 8月 15日 岩田花火大会見学
 8月 23日 しぶみ園夏祭り
 9月 11日、26日 介護相談員
 9月 15日 こしじの里敬老会
 9月 16日 越路地域敬老会利用者3名出席
 10月 3日 防災フェスティバル・越路西小3年生児童来園
 10月 16日 紙芝居ボランティア
 10月 17日 喫茶ひまわり
 11月 1日 紙芝居ボラ
 11月 14日 喫茶ひまわり
 11月 26日 長岡崇徳福祉専門学校学生 ICT機器見学
 12月 19日 喫茶ひまわり
 1月 14日 新年会
 1月 16日 喫茶ひまわり
 2月 20日 喫茶ひまわり
 3月 13日 喫茶ひまわり

会議・委員会

運営会議	14	虐待防止・身体拘束適正化委員会	24
工賃算定評価基準会議		衛生委員会	12

入所検討委員会	1 4	地域交流推進委員会	1 2
防災対策委員会	1 2	たんの吸引等安全管理委員会	4
感染症対策委員会	3 0	生産性向上委員会	1 2
事故防止対策委員会	2 0	地域連携推進会議	1

苦情・意見・要望

受付件数	8		
申出人	利用者	4	
	家族	4	
	その他		
内容	説明・情報不足	2	
	職員の態度	3	
	サービスの内容・量	2	
	権利侵害		
	その他		

事故・感染症

事故		感染症	
転倒	1 1	新型コロナウイルス	1 1
転落	4	インフルエンザ	2
外傷		感染症胃腸炎	
誤薬	1 6	疥癬	
その他	2	その他	

※事故・感染 行政報告を行ったもの

三 おごしの里活動実績

主な事項

- 4月 1日 納食業務委託移行
- 4月 28日 自然災害 BCP 研修
- 5月 12日 床清掃
- 5月 14日 消火器・消火栓取り扱い訓練
- 5月 16日 消防設備点検
- 5月 27日 利用者健康診断、結核検診
- 5月 30日 長岡労働基準監督署立入調査
- 6月 6日 夜勤者健康診断
- 6月 11日 自動ドア保守点検
- 6月 16日 長岡市避難情報伝達訓練参加
- 6月 25日 自然災害対策 BCP 訓練（災害時必要備品準備訓練）
- 7月 8日 消防立入検査
- 7月 10日 特殊浴槽保守点検
- 7月 13日 昼間時地域住民・地域消防団参加避難訓練
- 7月 22日 防火シャッター法定点検
- 7月 24日 新潟労働局立入調査
- 7月 25日 小国地域福祉懇談会参加
- 7月 30日 家族協力会（書面報告）
- 8月 2日 受水槽点検
- 8月 5日 納水給湯設備保守点検
- 8月 7日 地下タンク点検

8月30日 見守り支援センサーカメラ2台増設
9月 2日 心肺蘇生・AED取り扱い訓練
9月 6日 ガス設備点検
9月20日 災害対策BCP訓練（原子力災害想定）
9月23日 感染症BCP研修
9月26日 柏崎地区安全運転管理者定期訪問
9月28日 デイボイラー更新工事
10月 2日 デイボイラー更新消防署立会検査
10月23日 インフルエンザ予防接種
10月30日 東汚物室給湯管修繕工事
11月 1日 アクセスポイント機器、デマンド機器入替
11月11日 消防設備点検
11月15日 非常用予備発電装置起動用蓄電池触媒栓入替工事
11月18日 職員健康診断
11月20日 インフルエンザ予防接種
11月21日 電気保安定期点検
11月22日 消防署立会夜間時想定避難訓練
　　災害対策メール定期配信訓練
11月24日 廚房系統給湯配管修繕工事
11月28日 園内防除
12月 8日 自動ドア点検、受水槽点検
12月18日 簡易水道検査
　　1月 7日 特養ボイラー修繕
　　1月14日 給水給湯設備点検
　　1月22日 新型コロナウイルスワクチン接種
　　1月30日 床暖房メンテナンス点検
　　1月31日 地下タンク状況消防署報告
2月 4日 消防署立会地下タンク検査
2月16日 デイ照明LED工事
3月 6日 LANケーブル更新工事

行事・見学等

6月18日 介護予防出前講座（上栗集落）
6月25日 介護予防出前講座（七日町集落）
7月 9日 小国中学校職場体験学習受け入れ 3名（3日間）
7月10日 長岡市緑化センター職員 花いっぱい運動現地確認
7月18日 長岡市長寿はつらつ課職員 オレンジカフェ事業見学
7月22日 デイサービスセンターおごしの里夏祭り
7月28日 おごしの里納涼会
8月14日 夜櫻会施設訪問
9月15日 すこやかともしびまつり 職員1名ボランティア派遣
9月16日 敬老会
9月19日 小国中学校地域貢献活動受け入れ 4名
11月20日 オレンジカフェ部会参加
2月12日 介護支援専門員実務研修見学実習受け入れ（3日間） 1名
3月 2日 利用者懇談会

会議・委員会

運営会議	1 2	虐待防止・身体拘束適正化委員会	1 2
工賃算定評価基準会議		衛生委員会	1 2
入所検討委員会	1 2	地域交流推進委員会	2
防災対策委員会	1 2	たんの吸引等安全管理委員会	4
感染症対策委員会	4	生産性向上委員会	9
事故防止対策委員会	1 2	協力医療機関連携会議	9

苦情・意見・要望

受付件数	4		
申出人	利用者		
	家族	4	
	その他		
内容	説明・情報不足	4	
	職員の態度		
	サービスの内容・量		
	権利侵害		
	その他		

事故・感染症

事故		感染症	
転倒	9	新型コロナウイルス	
転落	4	インフルエンザ	
外傷	1	感染症胃腸炎	
誤薬	2	疥癬	
その他	3	その他	

※事故・感染 行政報告を行ったもの

四 しぶみ工房活動実績

主な事項

- 4月11日 エレベーター保守点検
- 4月17日 地震想定避難訓練
- 5月13日 消防設備点検
- 5月22日 感染症BCP研修
- 6月 5日 障害者虐待対応研修（施設内）
- 6月16日 長岡市情報伝達訓練参加
- 7月10日 感染症食中毒利用者職員研修
- 7月19日 保安協会漏電点検
- 8月16日 消火器使用訓練
- 8月29日 利用者向け作業事故防止勉強会
- 9月 7日 床清掃
- 9月18日 避難訓練、炊き出し訓練
- 9月27日 2階照明器具LED化工事
- 10月11日 世話人会議
- 11月26日 インフルエンザ予防接種
- 12月12日 厚生病院松田医院長による心の健康相談
- 1月14日 BCP研修（自然災害）
- 2月27日 地域活動支援センター情報交換会(アオーレ長岡)
- 3月 3日 かわばた寮誘導灯更新工事

3月13日 事務用パソコン6台更新

行事・見学等

- 4月12日 お花見会（せせらぎ公園）
5月 9日 地域奉仕活動（原地区）
5月27日 こども福祉カレッジ実習生受入（2週間）2名
6月 3日 長岡市立高等総合支援学校実習生受入（1週間）1名
6月 4日 小国中学校地域貢献活動（レクリエーション）6名
6月 4日 長岡市立高等総合支援学校教諭見学来所
6月 5日 新緑ウォーク（小国森林公园）
6月12日 小国地区民生委員見学
7月 4日 小国中学校地域貢献活動（レクリエーション）5名
8月 8日 納涼会
9月14日 すこやかともしびまつり（ボランティア）
9月19日 小国中学校地域貢献活動（レクリエーション）8名
10月 2日 バスハイク（弥彦方面）
10月25日 収穫祭（餅つき）
11月 3日 おぐに秋まつり
12月13日 忘年会＆クリスマス会
1月 6日 新年お楽しみ会

会議・委員会

運営会議	12	虐待防止・身体拘束適正化委員会	3
工賃算定評価基準会議	14	衛生委員会	
入所検討委員会	8	地域交流推進委員会	5
防災対策委員会	9	ケース援助会議	14
感染症対策委員会	7	世話人会議	2
事故防止対策委員会	5	地域連携推進会議	

苦情・意見・要望

受付件数	2		
申出人	利用者 家族 その他		2
内容	説明・情報不足 職員の態度 サービスの内容・量 権利侵害 その他		1 1 1 1

事故・感染症

事故		感染症	
転倒		新型コロナウイルス	
転落		インフルエンザ	
外傷		感染症胃腸炎	
誤薬		疥癬	
その他		その他	

※事故・感染 行政報告を行ったもの

実績資料

第三-四、五		令和7年3月31日現在		
事業執行体制、組織体制に関する職員配置状況		配置人数	常勤職員	短時間勤務職員
施設・事業所別	職種			
こじの里しぶみ園 介護老人福祉施設 短期入所生活介護	園長	1	1	
	補佐	1	1	
	総務職員	3	2	1
	管理補助員	5		5
	生活相談員	1	1	
	看護職員	4	3	1
	機能訓練指導員	1	1	
	介護職員	28	19	9
	補助員	0		
	給食栄養職員	6	6	
	小計	50	34	16
介護老人福祉施設 ユニット型	生活相談員	1	1	
	介護支援専門員	1	1	
	看護職員	2	2	
	介護職員	19	15	4
	管理補助員	1		1
	給食栄養職員	1	1	
	小計	25	20	5
しぶみ園 施設入所 生活介護 短期入所	看護職員	1	1	
	支援員	6	6	
	給食栄養職員	1	1	
	小計	8	8	0
通所介護	生活相談員	3	2	1
	看護職員	1		1
	介護職員	6	5	1
	小計	10	7	3
訪問介護 居宅介護	訪問介護員	3	3	
居宅介護支援	介護支援専門員	3	3	
こじの里しぶみ園全体	合計	99	75	24
おごしの里 介護老人福祉施設 短期入所生活介護	統括	1	1	
	園長	1	1	
	総務職員	2	2	
	生活相談員	2	2	
	看護職員	5	3	2
	介護職員	23	15	8
	管理員	3		3
	給食栄養職員	1	1	
	小計	38	25	13
通所介護	生活相談員	2	2	
	看護職員	2		2
	介護職員	9	2	7
	管理員	2		2
	運転員	1	1	0
	小計	16	5	11
訪問介護	訪問介護員	3	1	2
居宅介護支援	介護支援専門員	3	3	
おごしの里全体	おごしの里全体	60	34	26
しぶみ工房 就労継続B型 地域支援センター 共同生活援助	管理者	1	1	
	支援員	5	4	1
	世話人	7		7
	給食栄養職員	2	1	1
	合計	15	6	9
法人全体	合計	174	115	59

※兼務職員等は主として従事する職種に計上

※サービス提供責任者は訪問介護員に、サービス管理責任者は支援員に含む

※実数記載

※4名産休・育休 上記含まず

第五-二 介護老人福祉施設				
令和7年3月31日現在				
	こしじの里	こしじの里ユニット	おごしの里	計
在籍者数計	50	40	38	128
男性	12	14	6	32
女性	38	26	32	96
平均年齢計	90.4	92.6	91.7	91.5
男性	86.1	90.5	89.6	88.7
女性	91.7	93.7	92.1	92.4
平均要介護度計	3.8	3.8	3.8	3.8
1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	15	16	14	45
4	21	15	19	55
5	12	9	5	26
月別延べ利用者数計	16,930	13,726	14,127	44,783
4月	1,385	1,108	1,144	3,637
5月	1,416	1,157	1,112	3,685
6月	1,382	1,144	1,135	3,661
7月	1,439	1,109	1,192	3,740
8月	1,408	1,145	1,143	3,696
9月	1,410	1,121	1,136	3,667
10月	1,406	1,126	1,170	3,702
11月	1,419	1,122	1,159	3,700
12月	1,475	1,178	1,241	3,894
1月	1,424	1,177	1,295	3,896
2月	1,309	1,105	1,182	3,596
3月	1,457	1,234	1,218	3,909
平均利用者数	46.4	37.6	38.7	244.7
退所者数	16	15	23	54
入所者数	16	15	22	53
待機者	127	51	84	262
※特記事項・補足				
延べ利用者数は、空床期間、入院期間除く				

第五-二 障害者支援施設 しぶみ園			第五-二 障害福祉在宅サービス(在宅) こしじの里しぶみ園		令和7年3月31日現在
	施設入所	生活介護	短期入所	居宅介護	重度訪問介護
在籍者数・利用実数計	10		5	3	0
男性	7		4	1	
女性	3		1	2	
平均年齢計	74.1		46.4	54.6	
男性	76.2		43.8	65.0	
女性	69.0		57.0	49.5	
平均障害程度区分計	5.1		5.6	2.1	
1	0		0	0	
2	0		0	0	
3	2		0	1	
4	0		0	1	
5	3		2	0	
6	5		3	1	
月別述べ利用者数計	3,650	2,684	231	772	0
4月	300	220	26	63	
5月	310	230	19	65	
6月	300	214	14	65	
7月	310	230	21	70	
8月	310	230	22	64	
9月	300	220	20	62	
10月	310	230	18	65	
11月	300	220	22	70	
12月	310	230	15	58	
1月	310	230	20	63	
2月	280	200	16	61	
3月	310	230	18	66	
平均利用者数	10.0	10.0	0.63	4.92	0.00
退所者数	0	0			
入所者数	0	0			
待機者	1	1			
※特記事項					
生活介護稼働日：月の日数－8日					

第五-二							
高齢福祉サービス(在宅)							令和7年3月31日現在
	こじいの里			おごしの里			計
短期入所生活介護	介護	予防	小計	介護	予防	小計	合計
月別延べ利用者数	4,671	218	4,889	3,494	99	3,593	8,482
4月	306	5	311	249	2	251	562
5月	467	26	493	301	9	310	803
6月	344	17	361	319	6	325	686
7月	364	18	382	336	6	342	724
8月	364	14	378	321	4	325	703
9月	371	24	395	319	8	327	722
10月	413	23	436	292	15	307	743
11月	416	19	435	297	10	307	742
12月	432	19	451	271	10	281	732
1月	423	15	438	297	10	307	745
2月	388	17	405	229	10	239	644
3月	383	21	404	263	9	272	676
平均利用者数・日	12.8	0.6	13.4	9.6	0.3	9.8	23.2
平均要介護度	2.7	0.4	2.6	2.4	0.4	1.4	2.0
送迎者数	547	51	598	313	31	344	942
通所介護	介護	予防	小計	介護	予防	小計	合計
月別延べ利用者数	4,530	1,182	5,712	5,459	518	5,977	11,689
4月	416	133	549	520	31	551	1,100
5月	419	124	543	520	32	552	1,095
6月	372	114	486	493	35	528	1,014
7月	407	122	529	524	41	565	1,094
8月	365	102	467	419	31	450	917
9月	374	94	468	453	48	501	969
10月	407	105	512	371	43	414	926
11月	380	92	472	462	58	520	992
12月	343	77	420	438	56	494	914
1月	341	70	411	423	54	477	888
2月	327	70	397	377	49	426	823
3月	379	79	458	459	40	499	957
平均利用者数・日	14.5	3.8	18.3	17.5	1.7	19.2	37.5
平均要介護度	2.2	0.4	1.8	2.2	2.0	2.1	2.0
訪問介護	介護	予防	小計	介護	予防	小計	合計
訪問回数	1,700	537	2,237	1,132	78	1,210	3,447
4月	164	32	196	142	5	147	343
5月	160	37	197	125	4	129	326
6月	151	41	192	87	8	95	287
7月	146	48	194	103	9	112	306
8月	155	47	202	100	10	110	312
9月	140	46	186	98	9	107	293
10月	123	53	176	95	8	103	279
11月	106	48	154	93	8	101	255
12月	103	50	153	87	9	96	249
1月	147	48	195	72	8	80	275
2月	146	44	190	61	0	61	251
3月	159	43	202	69	0	69	271
平均利用件数・日	5.4	1.7	7.2	3.6	0.3	3.9	11.0
※特記事項							
短期入所生活介護には空床利用を含む実績							

第五-二 就労支援事業		令和7年3月31日現在				
		しぶみ工房		かわばた寮	ひまわりの 家	共同生活 援助計
	就労継続B型	地域活動支援センター				
在籍者数計	26	4		5	6	11
男性	13	3		5		5
女性	13	1			6	6
平均年齢計	45.1	52.7				40.6
男性	46.8	62.3		39.2		39.2
女性	43.4	43.0			42.0	42.0
平均障害支援区分計				5	6	11
1				1	1	2
2				3	4	7
3				1	1	2
4						
5						
6						
月別延べ利用者数	260	5,956	241	253	1,486	1,817
4月	22	511	20	20	120	144
5月	23	519	21	22	120	149
6月	22	487	20	22	120	147
7月	23	532	22	28	124	152
8月	20	469	20	15	113	138
9月	21	496	19	20	119	148
10月	23	540	22	25	124	152
11月	22	499	20	20	120	147
12月	22	524	20	21	117	178
1月	21	474	19	22	116	170
2月	19	423	18	18	139	138
3月	22	482	20	20	154	154
平均利用者数		22.9		1.0	4.1	5.0
※特記事項						

第五-二 公益事業		令和7年3月31日現在					
		こじの里			おごしの里		計
居宅介護支援	介護	介護予防	小計	介護	介護予防	小計	合計
計画作成数	1,256	369	1,625	1,069	160	1,229	2854
4月	114	35	149	102	11	113	262
5月	118	34	152	98	11	109	261
6月	115	34	149	93	13	106	255
7月	108	32	140	95	13	108	248
8月	106	32	138	91	14	105	243
9月	104	30	134	91	16	107	241
10月	100	30	130	88	16	104	234
11月	97	31	128	84	16	100	228
12月	99	29	128	83	15	98	226
1月	96	28	124	81	13	94	218
2月	98	28	126	82	12	94	220
3月	101	26	127	81	10	91	218
平均利用者数・月	104.7	30.8	135.4	89.1	13.3	102.4	237.8
平均要介護度	2.1	0.8	1.8	2.4	1.9	2.2	1.9
訪問調査受託	施設	在宅	小計	施設	在宅	小計	
月別延べ利用者数	28	51	79	10	0	10	89
4月	3	4	7	1	0	1	8
5月	0	5	5	1	0	0	5
6月	2	3	5	0	0	0	5
7月	1	2	3	0	0	0	3
8月	2	4	6	1	0	0	6
9月	3	4	7	1	0	1	8
10月	6	4	10	1	0	1	11
11月	1	4	5	1	0	1	6
12月	2	6	8	0	0	0	8
1月	5	5	10	2	0	2	12
2月	2	6	8	1	0	1	9
3月	1	4	5	1	0	1	6
くらし元気アップ事業			小計			小計	
月別延べ利用者数			277			268	545
4月			28			14	42
5月			28			21	49
6月			22			21	43
7月			18			26	44
8月			27			23	50
9月			26			20	46
10月			18			18	36
11月			33			21	54
12月			22			24	46
1月			22			30	52
2月			15			22	37
3月			18			28	46
平均利用者数・月			23.1			22.3	45.7
※特記事項							